

地域相談役会議は3月 いっぱいまで廃止すべき

都市内分権
といいながら
旧来の支配制
度を利用しよ
うとする木浦

市長に厳しい質問が飛びました。
「あなたは市長になった時に宮越前市長に相談しないで
もやってきたではないか。合併して旧13町村の三役に
なぜ頼ろうとするのですか。相談したいことがあるなら
事務所長などの職員に聞けばいい」

市民クラブの近藤議員の質問に続いての杉本議員の一
般質問は、25日の総務常任委員会での議論の呼び水と
なりました。

市長が私的諮問機関として設置した地域相談役会議
は、地域自治区における懸案事項などへの対応について
相談し、助言をもらう機関で、「懸案事項の終期がみえ
るところまで当分の間設置する」というものでした。杉
本議員の「相談にのってもらう必要があるというなら、
これまで3ヶ月の間に、どうしても相談しなければなら



ないことはあつた
のか、あつたなら
何か」との追及は、
「夏ごろまでに解
散する」という、
市長判断につなが
りました。

日本共産党議員団の一般質問

三人がき分けして市民の願い代弁



樋口議員、就学前までの 通院費助成求めて執念

「財源があればやるんでしょ。100億もの予算を組んでいて財源がないなんて言えますか」...樋口議員の声が議場にひびきました。

子どもが病気になっても経済的な負担を心配せずに医者にかかれる、この取り組みは子育て支援の大きな柱。幼児医療費の助成にどれだけ力を入れるかは、新市の将来にかかわります。

合併前までは入院も通院も小学校入学前まで助成していた区は、頸城区、板倉区、吉川区、清里区、三和区の5つ。これらの区では、合併によってサービスが後退することになります。日本共産党議員団のところへは、頸城区、吉川区などの住民から、「早く合併前と同じに戻してほしい」との切実な声が寄せられています。

新年度予算では、通院助成は旧上越市の水準より1歳引き上げられ、3歳から4歳までとなりました。一般質問で幼児医療費助成をとりあげた樋口議員は、「市長は、昨年3月議会の私の質問には、この問題を最優先課題として位置づけ取り組むとしていた。通院助成を1歳しか上げないのは納得できない。市長がやるきがあるかどうか問題だ」と訴えました。

過疎・豪雪地に焦点 をあてた対策訴える

「過疎地の最大の魅力は、そこに住んでいる人間が良
いことです」と前置きして始まった橋爪議員の質問のテー
マは、県立柿崎病院存続や最も困っている地域の市民に
焦点をあてた除雪対策でした。

橋爪議員の凛とした姿での追及に、木浦市長は、柿崎
病院存続に向けて関係議員などと連携して動くことを約
束しました。

「なぜ大雪警戒対策本部から豪雪対策本部へと格上げ
措置をとらなかつたのか」との質問には、「やってきた
ことは同じだ」と居直りました。しかし、対策本部の設
置については、旧上越市の基準を見直すことを約束する
とともに、「警戒積雪深」など各種基準の見直しの必要
性についてもうなづいていました。

橋爪議員の質問には柿崎病院存続を願う関係者が傍聴
に来ていました。



日本共産党上越市議員団ニュース

NO6	2005年4月3日
連絡先	杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
	樋口良子 544-6802 (中門前3)
	橋爪法一 548-3628 (吉川区)
事務局長	上野公悦 530-2203 (頸城区)

杉本敏宏議員、橋爪法一議員はそれぞれホームページを開設しています。活動日誌も書いています。アドレスは名前で検索できます。